

令和 8 年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和 8 年 5 月

桜花学園大学大学院 人間文化研究科

目次

I. 教職課程の現況及び特色	1
II. 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III. 総合評価（全体を通じた自己評価）	14
IV. 『教職課程 自己点検・評価報告書』作成のプロセス	15

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：桜花学園大学大学院 人間文化研究科

(2) 所在地：愛知県豊明市栄町武侍 48

(3) 学生数及び教員数（令和 8 年 5 月 1 日現在）

学生数： 人間文化研究科 16 名

(人間科学専攻 15 名、地域文化専攻 1 名)

教職課程履修学生 人間科学専攻 幼稚園教諭専修免許 3 名

人間科学専攻 小学校教諭専修免許 1 名

地域文化専攻 中学校・高等学校(英語)教諭

専修免許 1 名

教員数： 教職課程科目（教職・教科とも）担当 13 名／大学院全体 16

人間科学専攻 担当 11 名／専攻全体 13 名(非常勤担当 1 名／全体 1 人)

地域文化専攻担当 4 名／専攻全体 5 名（非常勤担当 1 名／全体 6 人）

(4) 卒業生の現況

2025年度修了生						
専攻	入学年度	学籍番号	氏名	勤務先	入学時と卒業後の異動について	大学院取得免許
人間科学	2021	51121003	A	社会福祉法人コンサルタント	継続。	
人間科学	2022	51122002	B	私立保育園	継続。	幼稚園専修免許
人間科学	2023	51123002	C	公立保育園	継続。2026年度から大学院研究生	
人間科学	2023	51123005	D	公立保育園	継続。	
人間科学	2023	51123004	E	進路未定		中学校（英語）および高等学校（英語）専修免許
人間科学	2024	51124003	F	保育士養成専門学校	新規。	

2 特色

(1) アドミッション・ポリシー

人間文化研究科では、桜花学園大学の建学の理念である「信念ある女性の育成」という教育目的に基づき、今日のグローバル社会、地方創生社会を切り開くための知性と理性を兼ね備えた創造力豊かな高度専門職業人の養成をめざしています。

人間科学専攻では、教育、保育、心理等の観点から、学部での学びや現場での実践経験を、振り返り整理し問題解決していく、高度な専門性の獲得を目指す意欲のある人の入学を期待しています。

地域文化専攻では、高度な語学能力や幅広い教養を修得することによって、世界的視野

で地域課題にアプローチし、多文化共生社会の創造へむけて取り組む意欲のある人の入学を期待しています。

＊本大学院は開学当初から共学であったが、学部では令和6年度（2024年度）から共学となり、建学の理念を「信念ある女性の育成」から「信念ある人物の育成」としている。

（2）カリキュラム・ポリシー

人間科学専攻では、教育学・保育学における高度な専門知識と思考力の修得が可能となる教育課程が編成されています。既得の免許状の上に小学校教諭専修免許状・幼稚園教諭専修免許状が取得可能です。

地域文化専攻では、高度な語学能力に基づき英語教育能力や多文化理解や地域研究能力の修得が可能となる教育課程が編成されています。また、グローバルな視点にたった具体的な地域課題の解決能力の修得が可能となる教育課程が編成されています。既得の免許状の上に英語の中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状が取得可能です。

（3）ディプロマ・ポリシー

本研究科に2年以上在籍し、修了に必要な所定の30単位を修得した上で、修士論文の審査基準を充たして合格し、次の素養や能力を身につけた学生に対して修士の学位を授与します。

教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力（人間科学専攻）

多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力（地域文化専攻）

（4）桜花学園大学大学院が目指す教師像

保育学部を基礎とする教育・保育の研究領域を拡大し、教育・保育に関するより広い視野からの高度な教育研究を行える教師（幼稚園専修免許）

就学前とそれに接続する小学校教育の全体を視野に入れ、その課題を的確に担いうる高度教育専門職としての教師（小学校専修免許）

より広い視野から言語学、文学、社会、文化を理解し、それらに基づく深い教材研究能力と指導力、高い語学能力を備えた教師（中学校・高等学校 英語専修免許）

（5）ポリシーと教職課程の特色

本大学院は「今日のグローバル社会、地方創生社会を切り開くための知性と理性を兼ね備えた創造力豊かな高度専門職業人の養成」を目的としている。

人間科学専攻においては「教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力」をディプロマ・ポリシーとする中で、幼稚園教諭と小学校教諭の専修免許の教職課程を開設している。

地域文化専攻においては「多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力」をディプロマ・ポリシーとする中で、中学校教諭（英語）と高

等学校教諭（英語）の専修免許の教職課程を開設している。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

〔現状〕

上記 2 (1) ～ (5) および修士学位論文審査基準を大学院 H P で公開。

〔優れた取組〕

新入の教職課程履修学生に対して、共通科目「人間文化特論」の第 1 回「教育学研究について」の中で、戦後の開放制による教員養成を行う歴史的経緯と意味、そこで問われる教師の専門性、専修免許に必要な深い研究能力、そして本大学院の目指す教師像について説明し、理解を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料

1-1-19「戦後の開放制教員養成の意義と専修免許の意味について」

② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

〔現状〕

本大学院が教員養成の理念とする教師像を、教職員が共通理解を図るために、年度末における大学院 F D 委員会において、院生の学びについての振り返りを行っている。

〔優れた取組〕

- ・年 2 回実施する「チーム指導報告」とその院生アンケート結果
- ・年 2 回開催する修士論文報告会についての教員の意見交換と院生アンケート結果
- ・院生の学びの軌跡である学修ポートフォリオについての教員による意見交換
- ・各授業についての教員による授業報告の共有と院生アンケート結果
- ・シラバスやルーブリックについての教員による意見交換を行い、ディプロマ・ポリシーにおける学修目標＝目指す教師像に関する点検評価と共通理解を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-1「チーム指導実施日時・内容報告書 書式」

1-1-2「チーム指導実施日時」

- 1-1-3「チーム指導アンケート」
- 1-1-4「修士論文中間報告会アンケート（１年生）」
- 1-1-5「修士論文中間報告会アンケート（２年生）」
- 1-1-6「修論最終報告会アンケート」
- 1-1-7「大学院学修ポートフォリオ書式」
- 1-1-8「第１回 ＦＤ委員会議事録」
- 1-1-8「第２回 ＦＤ委員会議事録」
- 1-1-9「大学院授業報告書書式」
- 1-1-10「大学院授業アンケート書式」
- 1-1-11「シラバス作成要領（2026 大学院）」
- 1-1-12「シラバス記載例（2026 大学院）」
- 1-1-13「大学院カリキュラム・マップ」
- 1-1-14「大学院 各特論ルーブリック」
- 1-1-15「大学院 共通科目 人間文化特論 ルーブリック」
- 1-1-16「大学院 課題研究Ⅰ～Ⅳ 共通ルーブリック」
- 1-1-17「修士論文審査基準表」
- 1-1-18「桜花学園大学大学院の目指す教師像」

③ 教職課程教育を通して育まれるべき学修成果（ラーニング・アウトカム）が具体的に示されているか

〔現状〕

想定される学修成果は、「高度な専門知識と汎用的思考力（人間科学専攻）」「高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力（地域文化専攻）」であり、いずれも①各科目のシラバスに記載し、②ルーブリックで共通の評価基準としている。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

- 1-1-11「シラバス作成要領（2026 大学院）」
- 1-1-13「大学院カリキュラム・マップ」1-1-14「大学院 各特論ルーブリック」
- 1-1-15「大学院 共通科目 人間文化特論 ルーブリック」
- 1-1-16「大学院 課題研究Ⅰ～Ⅳ 共通ルーブリック」

（２） 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

①教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

〔現状〕

学外的には、地域文化専攻の中学校および高等学校教諭専修（英語）の教職科目として、スクール・インターンシップ（英語）を開設し、大学院の教員による事前指導・事後指導と、桜花学園高等学校における校長、副校長、教務主任、英語教諭からの綿密な指導との連携のもとで、一種免許取得学生がより深い学校体験を得られるようにしている。

学内的には、研究者教員と実務家教員としての経歴をもつ教員が協力し、授業報告会やチーム指導などを行い、理論面と実践面での融合を図っている。

〔優れた取組〕

同一法人内の連携ということできめ細かなインターンシップを用意している。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-2-1「スクール・インターンシップ（英語）シラバス」

1-2-2「スクール・インターンシップ（英語）ループブック」

1-2-3「スクール・インターンシップ（英語）実習日誌」

② 教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。

〔現状〕

専修免許については履修者数が極めて少ないので、大学院運営委員会が学部の教職課程委員会と連携しながら、大学院運営委員会が教職課程の運営を行い、大学院FD委員会が点検を行っている。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-8「第1回 FD委員会議事録」

1-1-8「第2回 FD委員会議事録」

③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。

〔現状〕

開講科目のほとんどは平日6限、土曜日1～5限であり、学部の授業の多くが終了している時間帯であることから、演習、プレゼン、模擬授業展開等に適切な教室での開講が可能となっている。電子黒板等を利用した模擬授業にも対応できるよう適切な教室での開講が可能となっている。特に食育特論Ⅰ・Ⅱは家庭科調理室をいつでも使用でき設備が充実

している。また、授業の質を担保しつつ多様な学修機会を提供するため、2 種（学生ポータル WebClass」および「Google Meet」）の遠隔授業ツールを用意しており、学内 LAN や外部回線、院生が利用可能なプリンタ等が整備されている。

〔優れた取組〕

上記に加え、院生室にも P C（SSD 搭載による速度の速いもの）、プリンタ等が配備されている。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、F D（ファカルティ・ディベロップメント）や S D（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

〔現状〕

大学院 F D 委員会において、授業報告を会議で行い、各科目における取り組みと創意工夫を共有し改善を図っている。

〔優れた取組〕

授業報告を共有していること、書式において、昨年度の振り返り、シラバス設定と年度当初の抱負、実際の結果を記載するように工夫している。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-8「第 1 回 F D 委員会議事録」

1-1-8「第 2 回 F D 委員会議事録」

1-1-9「大学院授業報告書書式」

⑤ 教職課程に関する情報公表を行っている。

〔現状〕

大学院 H P において本自己点検評価報告書を公開している。

〔優れた取組・課題〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

桜花学園大学 H P 「情報公開」

[認証評価 | 学校法人 桜花学園 桜花学園大学 \(ohkagakuen-u.ac.jp\)](http://ohkagakuen-u.ac.jp)

⑥ 全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り

方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか。

〔現状〕

2025 年度も運営委員会にて年間を通して検討し、前期末と後期末に開催した拡大 F D 委員会にて点検・評価を総括した。また 2024 年度から学部教職課程委員会委員長が大学院 F D 委員長を兼務している。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-8「第 1 回 F D 委員会議事録」

1-1-8「第 2 回 F D 委員会議事録」

基準領域 2 学生の確保

(1) 基準項目 2－1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

〔現状〕

アドミッション・ポリシーとして人間科学専攻では、「教育、保育、心理等の観点から、学部での学びや現場での実践経験を、振り返り整理し問題解決していく、高度な専門性の獲得を目指す意欲のある人の入学を期待」し、地域文化専攻では、「高度な語学能力や幅広い教養を修得することによって、世界的視野で地域課題にアプローチし、多文化共生社会の創造へむけて取り組む意欲のある人の入学を期待」して入学試験を実施しているところから、教職を担うに相応しい者や既に教職を担っている者の入学を確保している。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

〔現状〕

大学院は高度専門職業人を目指す者が入学しており、ストレート・マスターについては一種免許を所持して後に教員・保育士を目指す者が、社会人入学生については一種免許を所持した現職教員・保育士が専修免許取得を希望しているゆえに、履修希望者が既に教職

を担うにふさわしい基準を充たしており、特に基準を設定していない。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

2-1-1「大学院 修了生の進路・就職先・取得免許の状況 2025」

③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

〔現状〕

毎年、両専攻併せて専修免許希望者が2~3名程度となっており、少人数教育を実施しており、履修学生の数に問題はない。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導が行われている。

〔現状〕

大学院は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力養成と教職で目指す教員養成とが、高度な研究能力の養成という点でつながっていることから、以下の方法で学生の教職に対する意欲や適性を把握している。

入学して前期修了時のM1夏の段階では、自分自身の職場の実践的課題、専門職としての実践的課題、地域社会の課題があり、それらと大学院での研究との関連を、リフレクション・ポートフォリオを用いて考察し報告している。その際に、「高度な専門知識と汎用的思考力」(人間科学専攻)と「高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力」(地域文化専攻)の必要性も含めて考察し報告している。

そして修士課程修了時に、再度リフレクション・ポートフォリオを用いて考察を行い、実践的課題等を引き受けた自分自身の修士論文の研究の意義を整理し報告している。

〔優れた取組〕

本大学院は、科目ポートフォリオとリフレクション・ポートフォリオからなる学修ポートフォリオを用いて、専修免許の教職課程で獲得すべき能力について、報告会を通して院生自身、院生間の共有、教員との共有を図っている点に特色がある。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-7「大学院学修ポートフォリオ書式」

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

[現状]

上記、基準 2-1 ④の通り。

② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

[現状]

主指導教員と大学院運営委員会とが連携して、個別に適宜行っているが、2025 年度は対象者 3 名であり、本学大学院研究生 1 名（以下の資料①）、国立大学大学院博士課程進学者 1 名（以下の資料②）、保育士養成専門学校 1 名となった。

[優れた取組]

特になし。

[改善の方向性・課題]

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

2-2-1「大学院キャリア支援報告書①」

2-2-1「大学院キャリア支援報告書②」

③ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。

[現状]

大学院で専修免許を取得希望の者は既に一種免許を取得しているため、特に提供はしていないが、各都道府県および政令指定都市による教員採用選考の推薦枠については、学部と連携して情報を共有している。

[優れた取組]

特になし。

[改善の方向性・課題]

当面、現状の取り組みを継続する。

④ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

[現状]

現職の教員・保育士が多いため、一種免許の上位に当たる専修免許教職科目の履修については個々の院生の判断に委ねており、就職率については既に就職した状況にあるが、転職の希望者については主指導教員と大学院運営委員会とが連携して、キャリア支援を個別に適宜行っている。

[優れた取組]

これまで転職や博士課程進学者については、希望通りの送り出しの支援を行ってきた。

[改善の方向性・課題]

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

2-1-1「大学院 修了生の進路・就職先・取得免許の状況 2025 掲載版」

⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状〕

半期に一度開催される修士論文中間報告会(8月)および修士論文最終報告会(2月)に院生OG会を開催している。また院生室のOGへの常時開放を通して、院生とOGとの研究やキャリア形成に関する交流を図っている。

〔優れた取組〕

現役院生とOGとの交流が進んでいる点に特色がある。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-4「修士論文中間報告会アンケート（1年生）」

1-1-5「修士論文中間報告会アンケート（2年生）」

1-1-6「修士論文最終報告会アンケート」

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

（1）基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

① 教職課程科目に限らず、キップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

〔現状〕

人間科学専攻と地域文化専攻との間において、他専攻の科目10単位迄を修了単位に置き換えることで、「高度な専門知識、語学能力、汎用的能力」を幅広く獲得でき、両専攻共通の必修科目「人間文化特論」を通して、両専攻の学問領域や研究の方法論を理解し、専修免許に相応しい専門性を提供できるようにしている。

〔優れた取組〕

また建学の精神である「近代的な女性の育成」に含まれる、専門的職業人の能力を高度化することは、戦後の開放制教員養成の柱である学問的教養とそこから派生する倫理、研究能力によって支えられる教職の専門性につながるものである。そのつながりとしての本学の教職課程の学びは、幼稚園教諭免許および小学校教諭免許に関しては「教育の基礎的理解」をさらに深めることを中心として修めた専修免許であり、中学校教諭免許（英語）および高等学校教諭免許（英語）に関しては「教科及び教科の指導法に関する科目」を専ら修めた専修免許であることを特色としている。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

3-1-1「大学院学則」(別表2含む)

② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

〔現状〕

本大学院の専修免許の教職課程科目は、教育職員免許法施行規則にある「大学が独自に設定する科目」のみで開設しているため、平成30年度申請の教職課程再課程認定において、教職課程のコアカリキュラムを適用していない。

但し、大学院教員は学部一種免許の教職課程コアカリキュラムを念頭に置きながら、その専門性をさらに深める内容で、専修免許に該当する科目のシラバスを作成し、令和3(2021)年度からは授業報告を教員間で共有している。令和4(2022)年度からは、授業報告を前期・後期ごとに実施することにし、さらに教職課程科目の内容については日本学術会議による「学士課程の基準」もしくは文部科学省による教職課程コアカリキュラム基準を用いた振り返りを授業報告書書式に追加し実施している。

〔優れた取組〕

授業報告書を用いて、学生のニーズに応じた授業の組み立て、学生の理解度、一種免許の内容の深化等の振り返りと共有、それらに基づく新年度の組み立てをFDで実施している点に特徴がある。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-8「第1回 FD委員会議事録」

1-1-8「第2回 FD委員会議事録」

1-1-9「大学院授業報告書書式」

③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

〔現状〕

平成30年11月26日、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」および平成31年1月22日、中央教育審議会答申「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」における、高度専門職業人の育成に必要な「高度な専門知識と汎用的思考力」の学修における共通基盤的科目として「人間文化特論」を、M1の必修科目としている。

〔優れた取組〕

本大学院は、「人間文化特論」を15回のオムニバス形式で展開することで、「高度な専門知識と汎用的思考力」の多様性と深さを理解できるようにしている点に特色があり、院生からの評価も高い。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

3-1-2「人間文化特論アンケート 2025」

④ 今日の学校における I C T機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

〔現状〕

Google Meet を用いた相互同時方向による遠隔授業、それと対面を併用したハイブリッドで基本的に授業を行っている。また心理系、生物系の教員が一定数おり、エクセルを用いた統計的解析を取り扱っている。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-9「大学院授業報告書書式」

1-1-10「大学院授業アンケート書式」

⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

〔現状〕

複数の学生が受講する科目においては、学生間の協働による思考・発表の作業を課し（新規検討）、その結果を大学院 FD 委員会において教員間で共有することになっているが、令和 3 年度は「教育史特論Ⅱ」で展開したが、それ以降、特に実施されていない。

〔優れた取組〕

令和 3 年度は、「教育史特論Ⅱ」で院生間の協働学習とその報告を実施した。

〔改善の方向性・課題〕

令和 8 年度は、各特論のいくつかにおいて、展開したい。

根拠となる資料・データ等

3-1-3「2021 教育史特論Ⅰ・Ⅱ授業報告」

⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。

〔現状〕

明示している。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

〔現状〕

専修免許の教職課程においては、法令上、教育実習は開設されていない。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔現状〕

専修免許の教職課程においては、法令上、教職実践演習は開設されていない。

また大学院では、「履修カルテ」として「科目ポートフォリオ」を運用し、ディプロマ・サプリメント（学位補記）発行に用いている。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-1-7「大学院学修ポートフォリオ書式」

（２）基準項目 ３－２ 実践的指導力養成と地域との連携

① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

〔現状〕

現在のところ、中学校教諭（英語）及び高等学校教諭（英語）の専修免許取得希望者を前提とした科目「スクール・インターンシップ（英語）」を開設し、学校体験を深め、英語の授業力を鍛えられる、専修免許の教育実習的な科目を 2022 年度から開設した。

〔優れた取組〕

同一法人内の高等学校でのインターンシップとなるので、きめ細かな学校体験が可能になることを特色としている。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

根拠となる資料・データ等

1-2-1「スクール・インターンシップ（英語）シラバス」

1-2-2「スクール・インターンシップ（英語）ループブック」

1-2-3「スクール・インターンシップ（英語）実習日誌」

② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの

機会を設けている。

〔現状〕

T A、インターンシップにおいては、報告書のみならず成果を公表する場（修士論文最終報告会当日の後半 新規検討）を設け、体験を院生と教員とで共有する機会を提供している。本年度は運用がなかった。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

令和 8 年度においては展開したい。

③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

〔現状〕

上記①の通り。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

④ 大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

〔現状〕

特に構築していない。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

⑤ 教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

〔現状〕

今のところ連携していない。

〔優れた取組〕

特になし。

〔改善の方向性・課題〕

当面、現状の取り組みを継続する。

Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

本大学院は、「高度な専門知識、汎用的思考力、語学能力」の獲得が各科目の中で深化されていることを点検するために、各科目の創意工夫を含めて「授業報告」を通して教員が

対面で共有して行くことを大切にしている。教員が専修免許の教職科目に創造的な工夫を凝らし、授業展開と振り返りを、開かれた有意義な作業として、さらに積極的に進めて行ける教職課程にしていきたいと考えている。

また基準3-1「② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。」の現状説明にあるように、本大学院は教育職員免許法施行規則に定める科目区分である「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」の多くを、幼稚園専修免許と小学校専修免許とで共通とし、保幼小の接続を含めた授業内容を展開している。「領域及び保育内容の指導法に関する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」において、幼稚園専修免許と小学校専修免許との差別化を図り、それぞれの年齢・発達段階に特化した内容を展開しているが、今後さらにそれぞれの括りの科目数を増やし、一層の差別化を図ることが課題であると認識している。

さらに両専攻の科目の系統性と開設数について常に検討して行くことが課題であると認識している。2026年度も運営委員会を中心に検討し、計画について審議したい。

IV 『教職課程 自己点検・評価報告書』作成プロセス

大学院運営委員会およびその代表である研究科長は、大学合同教授会、大学評価委員会、大学評議会のメンバーとして、教職課程の運用について常に確認し報告し必要事項を検討する。また学部教職課程委員会とも連携し、同様の活動を行う。

大学院運営委員会は、教職課程全体の運営を行う。

年度当初に大学院運営委員会は、年間の教職課程運営の流れを確認し、研究科委員会へ報告する。

年間の教職課程運営の自己点検（成果、課題、改善策等の検討）については、1月～2月の大学院FD委員会にて行う。

それらを踏まえて3月～4月に、大学院運営委員会が教職課程自己点検・評価報告書を作成し、年度当初の研究科委員会において審議する。

審議したものを、大学評議会もしくは大学評価委員会へ報告する。

*以上のプロセスについては、2021年12月1日第4回研究科委員会にてプロセスを確認し（微調整も含めた継続審議事項のため報告事項の扱いとしたが、プロセスや責任主体、各機関との連携については審議）、12月15日第9回大学評議会にて審議承認された（詳細については2022年1月12日第5回研究科委員会議事録に記載）。

V 現状基礎データ票

令和7年5月1日現在

設置者

学校法人 桜花学園

大学・学部名称					
桜花学園大学大学院 人間文化研究科 修士課程					
学科やコースの名称					
人間科学専攻、地域文化専攻					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
昨年度卒業者数				人間科学専攻 6 名 地域文化専攻 0 名	
就職者数 (企業、公務員等を含む)				現職継続 4 名 新規就職 1 名 学修継続 1 名	
教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も 1 と数える)				2 名	
教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)				4 名 (現職 3 名新規 1 名)	
正規採用者数				4	
臨時的任用者数					
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (非常勤講師)
人間科学専攻	10 名	1 名	0 名	1 名	1 名
地域文化専攻	4 名	1 名	0 名	0 名	5 名
相談員・支援員など専門職員数				0 名	